

# 日本医史学雑誌 第五十三卷 第二号 目次

原 著

本邦牛痘種痘法の鼻祖中川五郎次研究の歩み(上)

——(1)江戸時代から(5)昭和時代後期まで

占領期における急性感染症の発生推移

「法蘭院病中日記」と島田筑波

柳川家文書による華岡青洲系譜の検証

ひろば

「物のあはれ」攷

——舜庵・本居宣長の医学思想との関わりから

ヴェサリウスの家計

資料

池田文書の研究(三十一)

塾塾の塾頭松下元芳の系図について

——福沢諭吉の一代前の塾頭で親友の久留米藩医

追悼

三輪卓爾先生を想う

記事

消息

”シールボルトの足跡を辿る旅“ ドイツ各地で歓迎をうける

例会記録

例会抄録

江戸時代の家庭医学・看護書『病家須知』の現代語訳に取り組んで

松木明知……………一九二

田中誠二・杉田聡・森山敬子・丸井英二……………一九九

深瀬泰旦……………二〇九

柳川泰彦・柳川和一郎……………二七一

小高修司……………二六五

泉彪之助……………三〇三

池田文書研究会……………三一

中山茂春……………三七

小曾戸洋……………三三

中西淳朗……………三六

中村節子……………三八

《本号の表紙絵》

ヨハン・ペーター・フランク

(Johann Peter Frank)

『完全なる医事行政体系』

(System einer vollständigen medicinischen

Polizey) 第1巻扉

(筆者蔵)

ヨハン・ペーター・フランク (Johann Peter Frank, 1745-1821) は、ドイツが生んだ近代衛生学の祖であり、こんにちにいたるまでその名声は衛生学および公衆衛生学において燦然たるものがある。フランクは1745年にドイツ南部のロータルベンに生まれ、ハイデルベルク大学の医学部に学び、1766年に学位を得て1775年よりシュバイエル侯国の宮廷医となり、侍医として診療に携わるとともに、社会医学に関する関心を深める。その間、妻を産褥熱で、子どもを天然痘で失ったフランクは、社会医学の体系化とその普及の必要を痛感し、結果的に本巻6巻、補遺3巻の全9巻よりなるSystem einer vollständigen medicinischen Polizey (邦訳名はさまざまであるが、『完全なる医事行政体系』と通称されることが多い)の執筆に取りかかった。1779年にその第1巻が刊行され、本巻の最終巻である第6巻の刊行が終了したのが1819年、最後の補遺第3巻の刊行は1827年と彼の死後であることからわかるように、まさに畢生の大著述であった。内容的には時代の制約はあるものの、近代衛生学と衛生行政に関する浩瀚な論述は多くの卓見に満ち、後世まで類書の範となった。表紙絵の扉は、1786年刊行の第1巻第3版である。

(瀧澤 利行)

溝入茂著『明治日本のごみ対策——汚物掃除法はどのようにして成立したか——』	中岡小中鈴真	朱永唐
清水寛編著『日本帝国陸軍と精神障害兵士』	西田田西木柳	建和景
川村純一著『文学に見る痘瘡』	淳靖泰淳千	平弘昭
三枝純郎著『肛直外科迫害史』	朗春誠	三三三
中村禎里著『中国における妊娠・胎発生論の歴史』	三三三	三三三
福田安典編著『伝承文学資料集成第二一輯 医説』	三三三	三三三
書籍紹介		
最近二十年の中国における医学文化史研究の概要		
「咬合と全身」の過去と現在		
わが国初の狂犬病人体用ワクチン開発の経緯		
医学史に見る齒科の歴史		